

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

事業所名：グループホームだんらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	自治会長さんが協力的で、事業所と地域との橋渡しをしてくれるので、できるだけ協力をして地元の人々と交流するようにしていきたい。

事業所名：グループホームだんらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所内の利用者への支援が精一杯で、地域の方のことまで話し合ったことはない。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価を行った後、職員全体で確認し、日常の支援の内容を見直すようにしている。また、外部評価の結果を踏まえて、カンファレンスを行い、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるように努力している。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施しているが、平日の午後の開催のため、ご家族の参加が少なく、サービスの実際の報告が主となり、意見・要望など双方向的な活発な意見が出てこない。	○ 運営推進会議を平日以外の日に設定したり、平日でも開催する時間帯を遅くしたりして、できるだけ多くの家族に出席してもらえるように考えていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所、地域包括支援センターには管理者が出向いて相談したりして、情報の共有に努めている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学びながら、個々の必要性を関係者と話し合い、必要に応じて情報提供やそれらを活用できるような支援を行っている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、事業所内で虐待が行われないように注意を払うとともに、職員のカンファレンスにおいて、利用者への対応や職員の態度について常に気をつけるように話し合い、虐待につながらないように努めている。	

事業所名：グループホームだんらん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は管理者が対応し、利用者や家族等の不安、疑問点に十分に答えるようにしている。納得されるまで説明し、理解していただくようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の業務の中で利用者の意見、不満、苦情が出た場合は、その都度職員間で話し合い、運営に反映させるような努力をしている。また、利用者から意見、要望が職員・管理者・外部者に表せるような機会を持つような努力をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族向けの広報誌の発行で日常生活の様子をお知らせしながら、面会時に個々の利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の窓口、事業所以外の外部の人に家族等が意見、不満、苦情を表せる機会や場があることを伝え、意見箱も置かれている。また、運営推進会議への出席をお願いし、事業所の運営に関心を持っていただくように促している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回は職員と管理者のカンファレンスの機会を持ち、職員の意見や提案を聞きながら、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化や要望に応じていけるような職員配置が取れるように、勤務の調整に努めている。たとえば、受診対応が困難な家族の要望に応じて、事業所側で対応するために必要な職員の確保を調整したりしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内での異動はやむを得ず、職員が代わる場合には、事前に利用者説明してダメージを少なくするように努めている。		

事業所名：グループホームだんらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	今後は、近隣の事業者も含め、地域の介護サービス事業者・地域包括支援センターとの交流をより密にし、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流になるように更なる努力をしていきたいと思います。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名：グループホームだんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、家族と本人が何を必要とし、どうしたいのかを見極め、状況を判断した上で、他のサービスも含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、職員や他の利用者と同様に、いきなりサービスを開始するのではなく、場合によっては時間を決めての利用をしながら、徐々に場の雰囲気の溶け込めるように工夫しながら、サービスの開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者は人生の先輩であるという考えを職員が持っており、季節の行事やできることを一緒に行うことで、時間と場所を共有し、喜怒哀楽を共にしながら多くのことを学んでいる。	○	職員は利用者に対して親しみをこめているつもりでも、それが本人や家族に伝わらず、時としてトラブルの原因になることもあるため、利用者に対する言動には十分注意するようにし、一緒に生きていくという姿勢を持つようにする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心におきながら、家族との関係を密にする中で、一緒に本人を支えていく関係が築けるように努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係をできるだけ理解するために、情報を共有したり、これまでの生活の様子を家族から聞く中で、本人と家族の関係がこれまでどおり継続していけるような支援ができるように努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしていきたいが、事業所の場所が老健の敷地の中ということもあり、なかなかこれまでの関係を継続することが難しい。こちらから出て行くこともなかなか出来ない現状があり、今後の取り組み課題である。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が良い関係が保てるように、職員が出来るだけ中に入って努力しているが、性格の違いや、これまでの生活環境の違いもあり、なかなか難しい一面もある。出来るだけ孤立する利用者が出ないように、人間関係をうまく取り持っていく努力はしている。		

事業所名：グループホームだんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了するのが、特養入所や病院への入院が主となっているため、利用者や家族との関係を継続することが難しい。サービス終了と共に関係が切れてしまうことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族への関わりを継続的に深めて行き、身体的状況・精神的状況・社会環境的状况について深く理解する事により、その人の生活ニーズを明らかにして行く		表出されないニーズ、本人自身の気づかないニーズの複合性から生じるニーズ等を側面的に捉え本人自身に自発的に引き出させるような支援を考えます 介護者への苦情＝ニーズと捕え利用者の保護の立場に立っての対処方法を考えます
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報の必要な項目について、本人・家族・関係者による情報提供や、既に利用されているサービスの利用状況を把握し、くい違いが起こらないように居宅介護支援事業所、地域包括支援センターから、入所に至るまでの経過等の把握を行っている。	○	独居や親戚の少ない方の情報源が乏しい事から、その人を良く知る方の面会時には同席し一緒に話を聞くなどしています。地方包括支援センターの総合相談機関の利用で遡っての情報交換が気軽に出来るようにネットワーク作りに努めます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当制により、よりいっそう細かな部分まで目が行き届く指導を行い、生活ニーズに生じる変化、健康状態から治療、投薬状況、ADL、IADLの主訴や希望など状況変化に至るまでの把握に努めます。	○	過去の状況が現在にどんな影響を与えているかという視点で捉え、サービスの反復や長期的な関連を含ませたプラン作りを行って行きます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向が反映され、家族の同意に基づいた計画を作成するように努力している。その人の介護に携わる者が誰でも同じように実行できるようにし、担当者の意見やアイデアを基に、一人ひとりの将来を見据えたサービスの提供ができるような介護計画の作成を心がけている。	○	介護者がその人をバックアップ出来るような話相手になれる工夫考えます。外食・ピクニック・演芸鑑賞など社会参加ができるサービスの多様化で自立支援の促しを行って行きます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	繰り返しモニタリングやカンファレンス等を行い、サービスが適切に実施されているか、新たな生活課題が発生していないか、介護者の状況変化のチェックでサービスの修正や改善を求め、質を高める働きかけを行っている。	○	専門的立場で捉えたニーズ、利用者自身の感じるニーズ等を話し合いを重ねより確実にする努力をしています。

事業所名：グループホームだんらん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	其の日の出来事、バイタルチェック、健康状態、生理機能 状態を介護・看護記録に記入し職員の引継ぎ時に介護の共有に用いている。統計から目標に対しサービスが適正であるか検討し、自己評価の物指しとして細かい調整に役立たせている。	○	顔の表情や行動パターンを把握するのに「目で見える力」 観察力を養う事は大事と考え、独自での勉強や研修会へ積極的に参加する事を勧めて行きます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内に老健・居宅事業所・通所リハビリ・支援センターなどを構え連動させている。これらの設備の利用で機械浴や送迎等の手配など柔軟な対応が出来る。また、介護の状態に応じ施設内での入所・退所を円滑に行っている。	○	介護支援専門員が多種職の専門家から専門的立場での 判断や、知識・技術の指摘を受け介護技術への向上に取り組めます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	当施設が地域における介護保険サービスのフォーマルサービスの一環である事を踏まえ、行政・福祉機関からの相談や依頼には誠意ある態度で望むとともに、研修生の受け入れ事業など教育機関等に協力しながら、高齢福祉に貢献するように努力している。	○	2ヶ月に1度運営推進会議を開催しますが家族の参加が 望めません、行政と家族が共通目標を確認する場であり 多目化する地域サービスを具体的に知る機会でも有る事から参加を呼びかけて行きます
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との連携はとっているが、介護保険制度の性格上、他のサービスとの併用は困難であり、これまでもその必要性が生じていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域にいるときから権利擁護の必要性のある利用者については、継続して地域包括支援センターと協働して、本人の権利が守られるように、何が本人にとって一番良い方法なのかを模索しながらケアマネジメントを行っている。	○	権利擁護などを必要とする利用者には地域包括支援センターと協働する中で、最も良い方法が取れるように考えていく努力を常にしていきます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の信頼する主治医との関係作りを支援し、受診前には家族に現状報告をし、適切な治療が施されるようにする。此処でのかかりつけ医の紹介や、優先的に往診が出来ることも伝え、場合によっては双方の支援も視野に入れ考えている。	○	家族に「主治医意見書」が介護認定において重要である事の理解を求め、本人・家族が定期受診が確実に実施出来るように手配していきます

事業所名：グループホームだんらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人のかかりつけ医と連携し、認知症特有の症状や状況について職員からの情報提供を行ったり、家族の協力を得ながら定期的な受診と治療が受けられるような支援をしている。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日頃から併設の老健の看護師と契約をしており、日常に健康管理や医療上の相談は行っている。受診の必要性などを相談しながら、必要があれば家族の協力を得て、かかりつけ医への受診等を勧めている。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院に際しては、日常生活の情報提供や環境の変化に伴って予想される本人の状況に対する相談等を密に行い、安心して入院加療が行えるように努めている。また、病状が改善されれば、早期に退院できるように、病院との連絡もこまめに行い、受け入れ態勢を整えるように努力している。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、本人や家族、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、その時その時にどうしたいのか、どうしたら一番良いのかを考え、全員で方針を共有するようにしている。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んでいる。また、今後の変化に備えて検討し、できるだけのことを行こうと職員間で話し合っている。	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が他の場所へ移り住む場合は、家族や本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行って、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	

事業所名：グループホームだんらん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	馴染みの関係が築かれるのは望むところだが、馴れ過ぎると利用者の誇りやプライバシーに斟酌しなくなる傾向もあるため、言葉かけには十分な配慮を必要とする。その点を、職員に徹底するように努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	一人ひとりのペースをもっと大切にし、一日の過ごし方を柔軟にし、本人の希望に沿った生活が送れるように支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

事業所名：グループホームだんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	常に職員間で情報を共有し、一人一人の排泄パターン・習慣を見極めながら、失敗のない気持ちよい排泄が出来るよう、支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな方は毎日入れるような準備をしているので、希望されれば毎日入浴出来る。時間帯は午後限定に限定されてしまう。寝たきりの方も入浴できるよう支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の習慣により早く休まれたり、遅くなったりと、さまざまな為、其の方に応じた対応を行い安心して休めるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	後片付け・洗濯たたみ・皮むき・掃除・縫い物等得意な分野で力を発揮してもらえる様な場作りを行い、張り合いのある日々を過ごせるように配慮している。また、昔行った干し柿、漬物等思い出話をしながらできるような支援も行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして個人のお金は預かっているが、本人が所持したり、自由に使ったりすることはない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見ながら散歩に出かけたり、職員と一緒に買い物に出かけたりしている。また、戸外での昼食や、外食野機会を持つ等の努力はしているが、一人ひとりのその日の希望にそってという点については、まだまだ努力を要する。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気候の良い時気分転換のため少し遠出の計画を立てお弁当を持って皆で出かける機会を何回か作っている。家族への働きかけも行いながら、外出の機会を作っているが、本人の行ってみたい所へ行ける機会は、すくない。		

事業所名：グループホームだんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙等は、本人からの希望がないため、年賀状などを職員と一緒に書いているのみにとどまっている。電話は本人からの希望があれば掛けてもらうが、現状はあまり要望がない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中はもとより夜間でも訪問制限は設けていない。いつでも気軽に来て頂き、一緒にゲーム、体操、歌、話などをして楽しまれたり、あるいは居室にてゆっくり過ごしたり出来るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員が「してはいけないこと」という理解をしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害は理解しているが、玄関を出るとすぐに車の出入りの激しい駐車場に面しているため、職員の体制が万全でない早朝と夕方は玄関に鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中も夜間も、職員が本人のプライバシーに配慮しながら、利用者の所在や様子を常に確認している。また、本人の気持ちを尊重しながら、安全の確認も行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。たとえば、縫い物をする時などは、裁縫箱の針の数の確認を行ったり、使った後ののはさみの所在の確認等をきちんとしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内の研修に参加したり、外部の研修に参加したりして、事故を防ぐための知識を学ぶと共に、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		

事業所名：グループホームだんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生に備えて、併設の老健で行われている研修会や訓練に参加している。一度に全部の職員が研修に参加できるわけではないので、交代で定期的に研修に参加するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震、水害等の災害時に、利用者が避難出来るように日頃から訓練を行っている。地域との連携は、運営推進会議の際に、自治会長や市町村の担当者と確認している。	○	避難訓練の際に消防署の担当者にも指摘されているが、災害時には公共の機関より地域の互助が力を発揮するため、今後地域の防災活動等に職員が協力するなどして、地域との連携をより強めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態を常に把握し、変化があればその都度、起こり得るリスクについて家族に説明しながら、本人が抑圧感を感じないような対応の仕方を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、体調の変化や異変を早期に発見するような努力をしている。また、気づいた際には速やかに情報を共有し、看護師への相談や家族への受診依頼などの対応を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の服薬内容について理解しており、適切な服薬の支援が出来るように努めている。また、服薬の変更等による症状の変化に注意し、何らかの異常や症状の変化があった場合は、定期受診時に家族に情報の提供を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄のパターンを確認するとともに、できるだけ自然排便を促すように、繊維質の多い食材の使用や十分な水分補給に努めている。また、体操・散歩など身体を動かす機会を多く持つように働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては、毎食後本人の状態に応じて、促したり介助したりして、清潔が保持できるような支援をおこなっている。		

事業所名：グループホームだんらん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、食事の摂取状況を確認し、記録することにより全職員が情報を共有している。食欲不振、水分摂取不良の利用者があれば、好みの飲み物や食べ物を工夫しながら、栄養や水分の確保を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内で感染予防委員会を設置しているため、それに参加する事で感染症に対する予防や対応の仕方を取り決め、実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清潔には常に注意し、調理用具等は定期的に消毒をするともに、新鮮で安全な食材を使用するように努めている。また、職員の手洗いに実施や、必要に応じて手袋を使用するなどして、食中毒が発生しないように気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者や家族が親しみやすく、安心して出入りが出来るように玄関先にプランターを置いて花を植えたり、植木を置いたりして雰囲気作りをしている。	○	老健の施設内に併設されているため、事業所の入り口がわかり難く、近隣の人との交流がない。玄関を出るとすぐに、駐車場があるため、利用者の出入りには注意が必要である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は出来るだけ明るく清潔にし、利用者にとって居心地の良い空間となるように配慮している。また、季節感を出すためにクラフト紙で作った壁画や、行事に則った飾り付けを行うように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はワンフロアでスペース的には独りになったり、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるような場所が作り難い。椅子やテーブルの配置を工夫して、個のスペースが出来るように工夫している。		

事業所名：グループホームだんらん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、馴染みの物など、利用者の生活スタイルに合わせた物を置き、居心地良く過ごせるような配慮を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一定の時間で窓を開け、換気に努めたり、室内の温度調整はこまめに行い、外気温との大きな差がないように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差等なく、安全を基本に建てられているが、利用者一人ひとりの身体機能を考慮して、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。また、転倒予防の意味も含めて、常に環境整備を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来るだけ混乱や失敗がないように、本人のわかる力を活かした対応の仕方を心がけ、やさしく、丁寧に接することで、自立した生活が継続できるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関を出たところにある空間を利用して、気候のよい時には、外気浴をしたり、建物の外回りのわずかなスペースを利用して家庭菜園などを作り、収穫の楽しみを味わってもらったりしている。		

事業所名：グループホームだんらん

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症があっても、できるだけ自立した生活が継続できるように、職員が日々支援しています。グループホームが生活の場であることを認識し、家族と連携をとりながら、「その人らしい」生活が送れるように努力しています。職員と利用者が一緒に楽しむことが出来るような活動を通して、時間と場所を共有しながら楽しく生活が出来るように支援しています。